

オフライン型自動ペーパー研磨装置 Pp

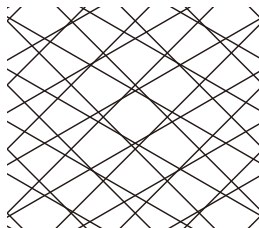
Automatic Cr Polisher

全数均一な表面研磨処理で、印刷ロスを大幅低減！

オフライン型で待望の自動ペーパー送り(巻取り)機構に対応。研磨角度や回数、回転方向の細かなプログラムを任意に設定し、放射状の均一なクロム表面の研磨仕上げが可能。印刷機での印刷適性の安定化に効果を発揮し、印刷不良を大幅に低減します。また、20万mの印刷で良好な結果事例もあります。(八潮化学株式会社様)



自動送りヘッド内部



研磨目イメージ

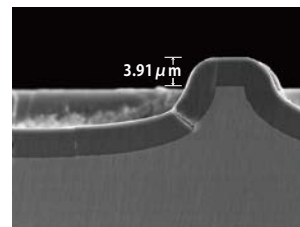


実際の研磨目 (LED ライト確認)

シリンダーの脱着作業用に、補助装置を標準装備し、初心者でも簡単に重量のある大型シリンダーの取り扱いが可能です。

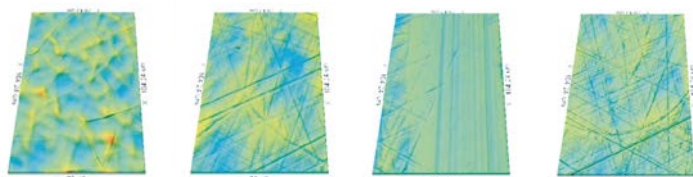
実は20万mの印刷でもクロムめっきは減っていません。だから厚みは4 μmで十分。

近年の国内グラビア印刷で1ロット1万m以上の仕事は一部に限られつつあります。このような状況で8 μmのクロムめっきは過剰と考えます。さらに、当社実験結果では20万mの印刷を行なった版(白)でも、4 μmのクロムめっきの摩耗量は0.1 μm以下。ドクターブレードによってペーパー研磨による研磨目が平滑化されて見えなくなる程度です。



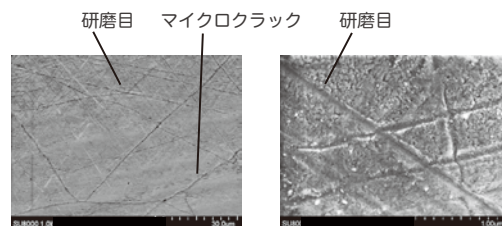
20万m印刷後も土手のCr膜厚にほぼ変化なし

Cr表面粗さ比較 (非画線部)



① クロムめっき後 ② ペーパー研磨後 ③ 20万m印刷後 ④ 再ペーパー研磨後

クロムめっき直後の版面①にペーパー研磨処理②を行い、20万mの印刷後の版面③を確認すると、②で行った研磨目がドクターブレードの摩擦によって部分的に平滑化されます。これを再度ペーパー研磨処理④を行うことで、②と同等の表面状態に戻すことが可能です。



実際のCr版面 (マイクロクラックと同等の幅0.1~0.2 μm程度の研磨目)

仕様

- 面長350~1300mm、円周400~940mm対応
- スタートボタンひとつで面長、直径を自動計測し、快適操作
- 研磨角度、研磨回数を任意に設定可能
- 重い大型シリンダーもらくらく対応できる脱着装置を標準装備

- ドライ、ウエット両対応(前処理洗浄機能)
- 研磨時間は標準サイズで3~10分/本
- 防爆仕様対応可
- ペーパーロール交換も簡単(自動型)
- 自動ライン対応インラインタイプもあります。